

自然科学部 高文連自然科学部門
実験観察会に参加しました。 6月7日・8日

今年度の高文連自然科学部門実験観察会に参加してきました。今年度は、国立三瓶青少年交流の家での1泊2日の研修でした。県下から約90名の参加があり、秋の発表会に向けての学習も兼ねた研修会でした。本校からは、2年生1名と1年生2名の精鋭で参加しました。初日は、午後から実験研修として新聞紙ドームとエアロケットを制作し、各班の対抗戦で膨らみ方と遠投の当てを競いました。設計図にしたがって制作するのですが、各班で工夫を凝らしてアレンジしていました。2日目は、南九州大学の秋山先生から研究の進め方や取り組み方についての講演を聴講しました。ノートルダム清心女子高校におられた時に指導してこられた生徒さんの具体的な話を伺い、参加した生徒諸君は、それぞれに心に留まった言葉があったように感じました。以下参加した生徒の感想の概要です。



2年佐々木君

私は、この研修を通して学んだことのキーワードとして2つを上げることができます。それは、「計画性」と「根気」です。計画性については、1日目の失敗から学びました。午後の3時間を使って、新聞紙ドームとエアボールロケットを作成せよ。という命題だったのですが、時間配分がまずく班員のそれぞれがエアボールロケットの作成に集中し、新聞紙ドームに取りかかったのは周囲の班より明らかに遅れていました。結局、作成できた新聞紙ドームは、補修が必要な部分が各所にあり、協力して丁寧に作品作りをすることが大切であることを学びました。

2つめの根気は、秋山先生の講演の中からです。先生は「研究に対しては常に誠実で根気強く取り組むと必ずと結果は得られる。」とおっしゃいました。現在、取り組んでいる研究に対して、常にこの言葉を胸に取り組んでいこうと思いました。

1年浅井君

僕は、初めて三瓶青少年交流の家に行きました。研修所での生活では、「挨拶、自分の事を自分でする。」と言われ、このことを意識して研修を受けました。1日目の新聞紙ドームの作成では、穴あきのドームを作成してしまい、補修が大変でした。慎重に一つずつ制作することの大切さを学びました。2日目の秋山先生のお話では、研究をする上での大切なことを学

びました。僕が印象に残った言葉は、「根が強いこと。考察をしっかりすること。」です。この言葉を忘れずにこれからの研究や実験に生かしていこうと思います。大変勉強になった2日間でした。これからの学校生活で生かしたいと思います。

1年保田君

僕は、三瓶青少年交流の家での研修は4回目でした。建物内では、慣れもありスムーズに研修に参加することができました。1日目のエアボールロケットと新聞紙ドームでは、作成中にテープを貼るとやり直しがきかず失敗しながら完成させることができました。最初の説明を聞いた時は、簡単だと思っていたのですが実際に制作してみると初めてわかる大変さを学ぶことができました。特に新聞紙ドームの制作では、補修や補強をする部分が必要になり、慎重で丁寧な作成が必要であることも学びました。2日目の秋山先生の話では、先生が研究されているイモリの求愛行動や精子を保存する行動をスライドで動画を交えて説明され興味深く聴講することができました。祖母の家の周辺で見たことはあったのですが、知らないことばかりであったので、自分でもゆっくり観察してみたいと思いました。

秋の研究発表会に向けて、地道に研究に取り組みましょう。